



都議選と参院選が迫る中、気になるのはSNSです。兵庫県知事選を見て、選挙の行方を左右する影響力を認識させられた方も多いでしょう。どう使うべきかの議論も基準もない現在、社会があらぬ方向へ導かれてしまう危険性を感じます。

個人や少数派も発信力を持つことができるようになったとはいえ、資金力のある側、多数派と肩を並べたわけではありません。新聞やテレビ等の“オールドメディア”にまさる速報性は検証の省略ゆえであり、正確性は置き去りです。また、専門知識や確かな情報源を持たない者、つまり誰にでも発信・拡散できることから、内容が論理的、科学的なものではなく感情的になります。適切な情報を拾い出すためには相当のリテラシーが必要でしょう。

2月25日付『東京新聞』によれば、配信の基準は話題性とのこと。人間が正しさより面白さを選び取るものだとしたら、たとえばイジメを見ても、やめさせるよりイジメの輪に加わった方が愉快だ、それが石破首相のいう「楽しい日本」かもしれません。SNSの使い方以前に、私たち自身のあり方が問われているようです。



3月は講演会

土曜日に開催します！ 皆さん誘いあってご参加下さい！

日 時 3月22日(土) 13:30~16:00

会 場 長池公園自然館 レクチャールーム

資料代 500円



ジャーナリストの末浪靖司さんにご講演いただきます。

中国事情と米中関係

中国の経済や軍事力は今どうなっている！？

「台湾有事」を理由に日本の軍備を増強！？

トランプ大統領の対中国政策はいかに！？

◆ 別添のチラシもごらんください。

新型コロナ感染症対策については各自ご留意ください。

2月の例会報告

- 昨年12月にNHKで放映された『国境の島密着500日防衛の最前線はいま』を上映鑑賞し、意見交換しました。
- 3月の末浪さん講演会で聞きたい講演内容への希望
- 講演会「ガザ虐殺に対する欧米日の責任－イスラエルの暴走を世界が止められないのはなぜか」について報告

★沖縄与那国島の基地建設に対する住民の意見の賛否、また、自衛隊が来てさえ、観光客を増やすために港を作りたいという町民の意見、戦争準備の実態を冷静に判断し対応できない苦悩が描かれた映像。沖縄以外の私たちがしなければならないことは何か？を考えさせる内容でした。

堀之内駅前での宣伝

3/17(月) 10:00~11:00

- 核兵器禁止条約への日本政府として参加を！
- 3/22末浪講演会のチラシ配布

八王子アクション

3/16(日) 14:00~15:00

JR八王子駅北口

さようなら原発3.8全国集会

「3.11福島原発事故を忘れない」

3/8(土) 13:00~

オープニング／トークライブ
呼びかけ人：鎌田慧ほか
代々木公園 (NHKホール横)

3/19(水)

18:30~

19日国会議員会館前集会

17:00~

大軍拡反対請願署名推進のつどい(参議院議員会館講堂にて)

3月講演会講師、末浪靖司さん執筆

『マスコミ・文化 九条の会所沢』会報

いかに戦争を防ぎ、国際平和を実現するか！ 2025.1.10より

中国長沙市の日中韓フォーラムで報告した経験から

✓ 戦争防止の歴史的教訓から国際平和を展望する

日中韓のフォーラムがこのテーマをとりあげたのは、ロシア軍のウクライナ侵攻やイスラエル軍のガザ攻撃のように21世紀になって残虐な戦争が起こされ、女性や子どもを含む多くの人々が犠牲になっている現実があるからです。



このような戦争がいったいなぜ現代の世界で繰り返されるのか。私にあたえられた「戦争防止の歴史的教訓から国際平和を展望する」というテーマの設定にも、そうした問題意識が込められていました。

この問題をめぐっては日本と中国、韓国とは歴史や政府の立場に大きな違いがあります。

それにもかかわらずフォーラムの参加者は共通の立場に立っていたように思います。それは、あのような侵略戦争を再び許してはならない、そのためには第二次世界大戦の教訓をくみ取り、そこから生まれた国際規範をよく認識し、為政者に遵守させなければならないという思いです。

✓ 武力の威嚇、行使禁じた国連憲章 <中略>

✓ 戦力、交戦権を禁止した9条

このことは改めていうまでもありませんが、私がとくに強調したのは、日本は第二次世界大戦の侵略国であり、日本には国連憲章が定める紛争の平和的解決のために、それをさらに徹底して陸海空軍その他の戦力の保持と交戦権を禁止した憲法第9条があり、米国と日本の政府はこの憲法を骨抜きにして葬りさうとしているが、日本国民はそれを守るために努力しているということでした。

✓ 「日中韓」で9条を語る

私の報告には3カ国の参加者からさまざまな質問や意見が寄せられました。わたしはこれまで米国や中国で国際平和や核兵器禁止などの問題について、現地の人々と語りあつことはありますが、日本国憲法、とりわけその第9条について日中韓3カ国の会議で語りあつたのは初めての経験でした。

今や日本政府はこの憲法に挑戦し、「反撃能力」などと言って、近隣諸国を攻撃できる能力を持つことを文書であきらかにしています。(安保三文書)

こういう時だからこそ、日中韓の研究者やジャーナリストが一堂に会して語りあうことがいかに大切なことであるかと思いました。<中略>

✓ なお、私の中国とのかかわりについて書きます。私は1965年に北京と上海で開催された日本工業展覧会に運輸係として参加しました。その後、中国の存在やその動向が日本の憲法や平和を否定する理由として使われていることを知り、中国の政治・経済・外交・国際関係について日中友好新聞に書くようになりました。このため『人民日報』、『文匯報』(ぶんわいほう)などの中国の新聞や『ワシントン・ポスト』、『フィナンシャル・タイムズ』など米英紙の中国報道を欠かさず読むようにしています。

